

薬学英語4A (Pharmacy English 4A)					担当教員
					教授 佐藤 毅
					助教 朝比奈 裕子 非常勤講師 天野 博夫
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
外国語	4年次 前期	講義 グループワーク	1.5単位	必修	

【概要】

本講義の目的は、医療従事者や研究者としてグローバルな舞台で活躍できる人材として必要な技術、プレゼンテーション力を習得することである。ここでは、学会や、共同研究者に接する機会を想定し、医学・薬学等に関する研究論文から得た情報に基づいて、英語によりPowerpointを用いての口頭発表を行う。その過程で、ライフサイエンスおよび医学・薬学関係の専門用語を駆使した会話力（口頭発表、聞き取りおよび質疑応答等）を習得できるようにこの講義は企画されている。資料を作成したら、まずプレ発表を行う。プレ発表では学術的な議論を行うことに加え、教員または聞き手側の学生から発表に関して修正すべき点を指摘してもらう。指摘された点を再点検し、本発表に望む。

【授業の一般目標】

医学・薬学関連の英語論文を読んで得た情報について3-5人の組で発表する。発表者は論文を自ら選択し、内容を理解して、図表等を駆使してスライドを作成し、発表を行う。本講義においては、特にResults and Discussionに絞り、データを英語で説明することを学ぶ。聴く側の学生は、プレ発表では発表に対するコメント、修正点等をまとめ提出、一方、本発表では質問を英語で書き提出する。また、発表後には質疑応答を行う。言語は、全て英語で行うことにより将来の医療従事者・研究者に期待されるコミュニケーション力を養成する。

〔関連する卒業認定・学位授与方針〕 DP2

【準備学習(予習・復習)】

興味のある研究論文を選択し、精読する。得られた情報を要約し、発表前にグループで準備する。発表に用いる図表にも工夫を凝らしてもらいたい。練習を充分行うことにより、効率よく理解しやすい発表をしてもらいたい。発表内容についての質疑応答にも注力してもらいたい。発表は、指定される順番で実施する。この予習、復習には1週当たり150分程度必要となる

【学習項目・学生の到達目標】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標
1	口頭発表の仕方に関する講義	佐藤・朝比奈・天野	口頭発表のコンセプトを理解する。
2	発表の資料作り(1)	佐藤・朝比奈・天野	各グループで発表内容を決定する。コンピュータを使って、発表資料を作ることで、内容に関して理解を深める。
3	発表の資料作り(2)	佐藤・朝比奈・天野	各グループで発表内容を決定する。コンピュータを使って、発表資料を作ることで、内容に関して理解を深める。
4	プレ発表(1)	佐藤・朝比奈・天野	作成したPowerPointスライドを用いてResults and Discussionに関する口頭発表を行い、修正すべきポイントを確認する。
5	プレ発表(2)	佐藤・朝比奈・天野	作成したPowerPointスライドを用いてResults and Discussionに関する口頭発表を行い、修正すべきポイントを確認する。
6	プレ発表(3)	佐藤・朝比奈・天野	作成したPowerPointスライドを用いてResults and Discussionに関する口頭発表を行い、修正すべきポイントを確認する。
7	プレ発表(4)	佐藤・朝比奈・天野	作成したPowerPointスライドを用いてResults and Discussionに関する口頭発表を行い、修正すべきポイントを確認する。

8	プレ発表(5)	佐藤・朝比奈・天野	作成したPowerPointスライドを用いてResults and Discussionに関する口頭発表を行い、修正すべきポイントを確認する。
9	プレ発表(6)	佐藤・朝比奈・天野	作成したPowerPointスライドを用いてResults and Discussionに関する口頭発表を行い、修正すべきポイントを確認する。
10	本発表	佐藤・朝比奈・天野	プレ発表で確認した修正点を修正し、口頭発表再度を行う。質疑応答により専門的理解を深め、発表、質疑応答技術を習得する。
11	同上	佐藤・朝比奈・天野	プレ発表で確認した修正点を修正し、口頭発表再度を行う。質疑応答により専門的理解を深め、発表、質疑応答技術を習得する。
12	同上	佐藤・朝比奈・天野	プレ発表で確認した修正点を修正し、口頭発表再度を行う。質疑応答により専門的理解を深め、発表、質疑応答技術を習得する。
13	同上	佐藤・朝比奈・天野	プレ発表で確認した修正点を修正し、口頭発表再度を行う。質疑応答により専門的理解を深め、発表、質疑応答技術を習得する。
14	同上	佐藤・朝比奈・天野	プレ発表で確認した修正点を修正し、口頭発表再度を行う。質疑応答により専門的理解を深め、発表、質疑応答技術を習得する。
15	総括・まとめ		

(書名)

(著者・編者)

(発行所)

教科書 なし

参考書 学術雑誌など

【成績評価方法・基準】

発表および質疑応答での取り組みを総合的に評価する(100%)。

【評価のフィードバック】

発表に関する講評はmanaba上に公開する。